

2020年6月14日

一般社団法人 交野青年会議所
創立40周年記念事業・新型コロナウイルス対策特別事業

第2回 いのちの絆 献血推進プロジェクト 実施報告書

実施日時	2020年6月12日(金) 10:00~12:00/13:00~16:30
実施場所	フレンドマート交野店駐車場内
受付人数	66名/1位
採血数	53名/1位タイ 全て400ml献血
骨髄バンク登録	15名



1. 総評

2020年6月12日（金）に、フレンドマート交野店の駐車場内に献血バスを呼び、献血事業を実施した。第1回に引き続き、本事業の特徴である①自家用車や自転車で来てもらいやすい会場設定、②事前予約制度による人数調整、③献血バスの採血席を4席→2席で運用、④バックヤードを広く取って受付・検診待ちや休憩時に密集しないことを徹底し、新型コロナウイルスへの感染リスクを高めない工夫を行った。また今回からの新たな試みとして、⑤交野市献血推進協議会との共催事業としたこと、⑥関西骨髄バンク推進協会と連携し、献血時に骨髄バンク登録が出来る体制をとったことが挙げられる。

結果からみて、第2回の献血事業も大成功だったと言える。平日の日中、しかも梅雨入り直後の雨と悪条件ではあったものの、受付人数66人、採血人数53人（全て400ml献血）、骨髄バンク登録15名と第1回と同程度の成果を収めることが出来た。またこの結果は、大阪府下で同日稼働していた献血バス8台中トップの成績であり、昨年8月に同会場で開催された献血バス事業時と比較すると約3倍の成果が上がっている（下図参照）。

【献血バス運用実績】

実施日程	献血会場	受付数	採血数
2019年8月3日	フレンドマート交野店	24	17
2020年6月12日	フレンドマート交野店	66	53
2020年6月12日	阪南市役所	62	53
	千里中央駅前	36	29
	食品館アプロ生野小路店	38	26
	京橋駅前	33	23
	マルナカ東大阪店	25	22
	阪急オアシス高殿店	18	17
	阪急高槻駅ミング入口前	21	15

提供：大阪府赤十字血液センター

今回の献血では、36名で設定していた事前予約枠が27名（75%）しか埋まらなかった。しかし当日受付としてシニアクラブの先輩方、交野市から献血バスの案内ハガキを受けた人、そして当日の買い物客の方々に数多く協力して頂くことが出来た。

次回の第3回は2020年7月29日（水）、交野市立保健福祉総合センター（ゆうゆうセンター）での実施となる。非常に暑い時期でもあり、第1回・第2回以上に人通りが少ない場所での開催となるため、開催条件としては一番厳しいものになる。事前予約による動員を含め、しっかりとした準備を行っていく必要がある。

2. 第1回からの改善点

「3密を避け、新型コロナウイルスの感染リスクを下げ、安心・安全な献血環境を提供する」という基本スタンスは変わっていないが、第1回の反省と新たな試みとして、次の6点を行った。

01. 受付（15分）→採血（15分）→休憩（15分）の45分サイクルへの変更

第1回は各受付・採血・休憩各20分の60分サイクルで予約を組んでいたが、実際にそこまで時間がかかっていなかったことから、今回から各15分の45分サイクルで予約時間を組んだ。採血席が2席稼働なので、これにより1時間当たり8人の受入予定で予約枠を設定、あとは実際の進捗を見ながらプラス α として1時間当たり2~4名の当日受付を行った。

途中人が集中した時間が一瞬合った（13~14時頃）ものの、概ね予定通りに回すことが出来た。

02. 12時~13時の昼休憩時間の確保

第1回の時は60分サイクルで予約を組んでいたこともあり、受け入れ可能人数が少ないため、採血に関しては昼休憩なしの交代制で行って頂き、赤十字スタッフの皆様には大きな負担をかけてしまった。そのため今回は45分サイクルで回転をあげたうえで、12時~13時の間にきちんと休憩時間をとった。受入時間は1時間減ったものの、結果としては前回と変わらない人数を受け入れることが出来た。

03. 雨天対策の実施

当日は雨予報だったため、雨対策として、採血バスとは別に「検査用バス」を1台追加して頂いた。これにより、2台のバスから張り出したテントの間で広く休憩スペースを作ることが出来た。また交野JC側でもテントを3基手配し、休憩スペースを拡大した。

04. メンバーによる当日呼び込みの実施

事前予約が満席になっていなかったこと、また会場が商業施設内だったこともあり、青年会議所メンバーで当日呼び込みも一部行った。特に会場が広がったため、「献血やってることに気づいていないお客様」も多く、一定の呼び込み効果があったと考えている。

05. 交野市献血推進協議会との共催体制の確立

第1回は完全に交野青年会議所が単独開催したが、第2回は交野市献血推進協議会との共催体制で実施した。具体的には、交野市献血推進協議会が年間予定に上げていた献血バス事業にジョイントする形を取り、我々青年会議所が事前予約や当日動員など、「人集め」の部分を担当することになった。交野市献血推進協議会側は、会場や市の施設各所への案内ポスターの印刷・掲示や、過去に献血を行った人への案内ハガキの送付などを行っている。

2団体の得意分野を生かした共催体制をとることが出来たと思う。第3回目以降も同様の共催で事業実施を行う。

06. 関西骨髄バンク推進協会との連携

第1回では骨髄バンク登録に関する資料配布のみを行ったが、今回は関西骨髄バンク推進協会と

連携し、骨髄バンク登録の専門説明員を2名派遣して頂いた。これにより、献血バスでの献血と併せて骨髄バンク登録が可能となり、15名の方に登録して頂くことが出来た。献血と骨髄バンク登録は事業としての相性も良いので、「交野青年会議所の献血バスでは骨髄バンク登録出来る」というのを今後も継続し、定番化していきたい。

3. 第2回の反省点と第3回に向けての改善点

概ね成功裏に終わった第2回ではあったが、反省点、次回に向けての改善点も多い。最後に次回開催に向けての修正点として、まとめて列挙しておく。

01. 事前予約を必ずすべて埋めてから当日に臨む

今回の事業実施に際しての最大の反省点はこれである。目標36人の予約枠に対して、27人(75%)しか埋めることが出来なかった。今回は人通りの多い商業施設内での実施だったため、事前動員不足を上回る結果を出すことが出来たが、第3回は人通りの少ない場所での実施となるため、事前予約をしっかりと行わないと献血数が集まらない。

事前予約を埋めきれなかった理由としては、予約開始時期が遅かったこと、青年会議所メンバー全員での事前予約への声掛けが出来ていなかったこと、があると思う。そのため第3回は早い段階で予約HPを発信し、メンバー全員で声掛けを行っていく。

02. 交野青年会議所メンバーの動員(当日運営)の強化

平日の日中、しかも梅雨入り直後ということで、当日運営に参加できるメンバーも少なかった。本事業における我々の守備範囲はあくまで「動員」なので、当日の運営人数は4~5人でも十分にまわすことが出来る。しかし3回4回...と継続していく事業なので、次回以降は多くのメンバーを巻き込み、負担の集中を減らすこと、全員での事業構築感を共有していくが必要になる。次回開催日はすでに決まっているので、早々に動員をかけていきたい。

03. 交野市役所職員さんへの動員

第3回目の会場であるゆうゆうセンター周辺は人通りが少なく、当日動員がほとんど期待できない。また利用者の多くも高齢者で献血対象年齢でないことも多い。そのため、事前予約も必須であるが、第1回の市役所前献血のように、ゆうゆうセンターで働く市職員の皆さんの協力を得る必要がある。可能であれば第1回同様、市長から献血協力を促す連絡を回してもらえよう働きかける。また献血当日に館内放送などで参加を促してもらうことも考えられる。

04. ゆうゆうセンター内の各団体への動員

ゆうゆうセンター内には、社会福祉協議会や交野市医師会をはじめ様々な団体さんが事務所を構えている。この人たちにも協力を依頼し、当日の献血協力者を増やす。

05. 近隣住民への動員(自治会経由での連絡)

ゆうゆうセンターは天野が原や私市の住宅地に近いので、自治会経由で近隣住民に献血の案内をおこない、協力を募る。

06. 実施する献血および骨髄バンク登録についての注意も事前に行う

今回の協力者への案内の際にも我々の理解不足で混乱があったので、下記の点については周知しておく必要がある。

- ① 体重 50 kg 以上でないと 400 ml 献血はできない。また献血バスでは 200 ml 献血や成分献血を受け付けていない。
- ② 献血が可能なのは男性が 17 歳～69 歳、女性が 18 歳～69 歳（ただし男女ともに 65～69 歳の方は 60～64 歳の時に献血をしている人に限る）
- ③ 前回献血から男性が 3 か月、女性は 4 カ月以上空いていないと 400 ml 献血はできない。また年間献血可能数は、男性が 3 回、女性が 2 回まで。
- ④ 骨髄バンク登録の年齢制限は 18～54 歳。
- ⑤ 睡眠不足や食事抜きでは献血できない

07. 対外広報の強化

第 1 回・第 2 回ともに、今までの交野市内での献血ではありえない成果を出すことが出来ている。しかも特段難しいことはしておらず、交野市と同規模のまちであればどこでも実施できる。献血不足を打開するためには、我々だけが頑張っても意味がない。我々が行っている献血のやり方・仕組みを広く発信し、同じやり方をまねて実践してもらってこそ、課題解決につながる。その意味でも、毎回報道各社に取材依頼を送っているのだが、まだどこも反応が返ってきていない。地道に実績を積み上げていくことはもちろんだが、プレスリリースについてもより効果的な方法を探っていく必要がある。

4. 他の大阪府下の献血事業との比較【参考】

次の資料は、2020 年 6 月 14 日（日）の大阪府下の献血バス運用実績である。全 9 台が稼働しており、青色で示しているのが青年会議所主催のものである。この日は日曜日、そして世界献血デーということもあって府下各地で大々的な献血バス事業が打たれている。献血バスの平均献血数が一日あたり 41 人程という点を考えれば、稼働した 9 台すべてが大きく超えており、特に青年会議所が関わっている献血バス事業が上位に来ていることも、非常に嬉しい結果ではある。

【2020年6月14日（日）の大阪府下の献血バス運行実績】

実施日	受付場所	受付数	採血数
2020年6月14日	阪急上新庄駅前	96	83
	イオンモール鶴見緑地店	92	80
	HEP FIVE前	81	73
	アンディイズミヤ泉北店	87	72
	ピバモール和泉中央	80	70
	なんばグリーンガーデン（高島屋前）	75	63
	京橋駅前	77	62
	京阪守口市駅前	61	55
	JR長瀬駅前	52	48

※青色は青年会議所主催の献血事業

提供：大阪府赤十字血液センター

我々が開催した第2回とは状況が異なるため一概に比較することはできないが、この結果を見て素直に感じるのは、もっと数字を伸ばすことが出来たのではないか、ということである。この日の献血バスでは、我々がやっているように、採血席を4席→2席に制限していない。献血バスの運用において一番のボトルネックになり、かつ時間短縮が難しいのが「採血時間」である。我々の献血バス事業で一日の採血人数が60人を超えないのは、ここに物理的な上限があるからである。逆に言うと、献血席が2席→4席の倍になれば、120人とは言わないまでも、採血人数100人超というのは決して無理な数字ではないはずだ。

ではなぜ採血数100人に届いていないのか？その理由は、献血バスにやってくる人が集中する時間帯と、途切れる時間帯が存在するためだろう。①人が集中してしまうと待ち時間が長くなって協力をあきらめる人=機会損失が生じる。また②人が途切れてしまうと、採血席が遊んでしまう。②の時は「何とか人を集めなければ」と気持ちが焦るので問題を自覚しやすいが、①の時は人がたくさんいるので「事業が成功している」と錯覚してしまう。本当の意味での事業の成功のポイントは、①であふれた人を②の人の少ない時間帯に誘導すること=献血バスにやってくる協力者の数を平均化することにある。

我々交野青年会議所で行っている献血事業では、「3密を回避して新型コロナウイルス感染の感染リスクを下げる」のための事前予約制度による人数調整が、献血協力者の平均化につながっている。もともとコロナ禍において献血事業を成功させるための方法として取り入れた「事前予約制」であるが、6月14日の府下各地の献血バス運用実績を見てみると、思っていた以上に機会損失によるロスが多いことがわかる。我々が取り組んでいる事前予約制を他地域で共有することで、献血はより効率的に行うことが出来るのではないだろうか。そのためにも、日本赤十字側で「献血バスでも使える予約システム」を早急に開発して頂きたいと思う。